

障がい者 福祉情報

166号 2024年3月

編集・発行

社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会

〒816-0804 春日市原町3丁目1番地7

クローバープラザ

TEL 092-584-3330 FAX 092-584-3319

<https://www.fuku-shakyo.jp/kikanshi/fukushi-back/>

第25回夏季デフリンピック競技大会 東京2025

東京2025デフリンピックが、2025年11月15日から同月26日までの12日間東京都で開催されます。

デフリンピックとは、デフ+オリンピックのことです。

デフ(Deaf)とは、英語で「耳がきこえない」という意味です。

デフリンピックは国際的な「ろう者のためのオリンピック」なのです。

国際ろう者スポーツ委員会(ICSD)が主催し、4年毎に開催されるデフアスリートを対象とした国際総合スポーツ競技大会です。

第1回は、1924年にフランスのパリで開催されました。東京2025デフリンピックは、100周年の記念すべき大会であり、日本では初めての開催になります。

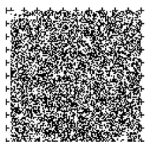
国際手話のほか、スタートランプや旗などを使った視覚による情報保障が特徴です。

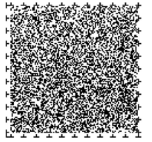
デフリンピックには、①「ほちょう器」などを外した状態で、きこえる一番小さな音が55dB（デシベル）を超えており、②各国の「ろう者スポーツ大会」に登録されている選手で、記録・出場条件を満たしている人が参加できます。

福岡県からも太宰府市在住の矢ヶ部紋可さん、矢ヶ部真衣さん姉妹がバドミントンでの出場が予定されています。

もくじ／通巻166号

・東京2025デフリンピックについて	1～5
・お知らせ	6
・ほんだな	7
・福岡県障がい者福祉情報ハンドブック2024 案内	8

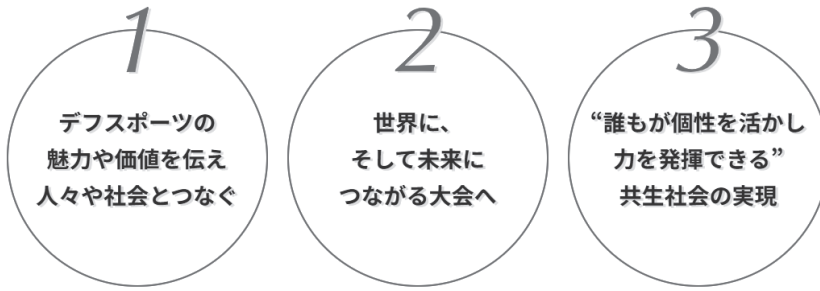




第25回夏季デフリンピック
競技大会 東京2025

条例の概要

大会ビジョン



一般社団法人
全日本ろうあ連盟

(開催基本計画…出典)

デフリンピックを通して
めざすもの

みんながつながる

・情報保障やコミュニケーションの充実

デフスポーツに必要なスタートランプなどの機器に加え、ビジョンやサイネージなどを活用します。

競技会場内の案内表示・掲示は誰もがわかりやすい表示とします。

東京2020大会で使用された多言語翻訳や音声文字化などのデジタル技術を活用す

るとともに、国際手話人材の育成にも取り組み、選手や関係者の円滑なコミュニケーションをサポートします。

・新しい技術の開発

最新技術の調査・発掘を行うとともに、民間事業者などと連携し、様々な機会を捉えて技術の実証を行います。

スタートアップ企業との連携により、競技の音を擬音で表示するなど、「誰もが大会を楽しめる技術」の開発などに取り組みます。

・大会における技術活用状況などの発信

大会でデジタル技術を活用している様子を広く発信します。

選手同士の交流や、都民・国民が大会を体感できる拠点となる「デフリンピックスクエ

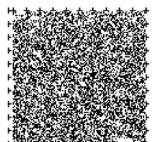
ア」において、技術の展示やPRを行います。

世界の人々が出会う

・様々なおもてなし

魅力あふれる多彩な競技施設や整備された交通網を活用するとともに、ボランティアによる手話言語対応も含めた心のこもったコミュニケーションなどにより、選手や関係者をお迎えします。

国籍や障がいのあるなしに関わらず、あらゆる人に大会の持つメッセージを届けられるよう、発信の場所や手法などを工夫していきます。



・大会を彩る取組

大会を契機に日本を訪れるあらゆる人が楽しめる芸術文化の取組を展開し、共生社会に向けたメッセージを発信していきます。

東京産の魅力あふれる食材を大会関連イベントで活用するなど、大会に関連した様々な場面で、東京の魅力をPRしていきます。

こどもたちが夢をみる

・大会を通じた学び

都内や被災地の子どもたちが、会場で熱戦を間近で観たり、デファスリートと交流したりすることで、スポーツの素晴らしさや共生社会の大切さを学ぶ機会を設けます。

しさを共生社会の大切さを学ぶ機会を設けます。

デファスリートが学校を訪問し、子どもたちと交流する機会や、大会関連イベントを通じてデフスポーツを体験する機会を設けます。

・またとない経験を子どもたちに

大会の象徴となるエンブレムのデザイン設定や、選手入場時のエスコートキッズなど、子どもたちが大会にとつて大切な役割を担う機会を設けることで、他では得られない経験を子どもたちに届け、その成長をサポートします。

大会関連イベントを通じて、選手へのメッセージを送るなど、子どもたちと一緒に大会を盛り上げます。

未来へ つなぐ

・共生社会の大切さを学ぶ

大会に向けて、障がいのあるなしに関わらず、一緒にスポーツを楽しむイベントの展開や、ろう者の文化への理解につながるハンドブックの作成などを通じて、人権や多様性について考える機会を設けます。

・環境への配慮

既存施設や物品をできるだけ活用し、調達が必要な場合でもリースやレンタルを基本とするなど、脱炭素化と3Rの推進に努め、環境に配慮した大会運営を行います。

みんなで創る

・様々な連携

多様な視点や当事者の目線を計画に反映できるように、デファスリートなどとともに大会の計画を考えていく。

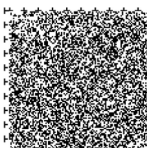
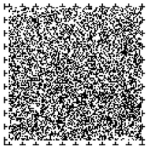
大会の準備運営にあたっては、国内・都県の競技団体や関係自治体と効果的に連携していきます。

・多様な人々の参画

障がいのあるなしや年齢などに関わらず、多様な人々がボランティアとして活躍できる機会を設けることで、東京2025大会を通じて広がったボランティア文化をさらに根付かせていきます。

大会を支える人々の努力や、ろう者が社会で活躍する姿などをウェブサイトで発信します。

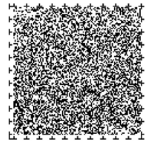
エンブレムの作成や「東京2025デフリンピック応援アンバサダー」など、当事者の協力も得ながら大会の気運醸成に取り組んでいきます。





大会エンブレムのデザイン案は、国内で唯一の聴覚障害者・視覚障害者のための国立大学である、筑波技術大学の学生（総合デザイン学科を中心とした産業技術学部の学生）が制作し、令和5年9月3日（日）、東京都パラスポーツトレーニングセンターにて行われた「2025年デフリンピック 大会エンブレムをえらぼう！〜中高生によるエンブレムデザイン投票グループワーク・発表イベント〜」において、都内中高生の投票により決定しました。

東京2025デフリンピック
大会エンブレムが決定！



①「手」

- ・デフコミュニティの代表的なシンボルである「手」を表現
- ・デフリンピックを通して、競技と話題に「触れて」欲しいという想いを込めた。

②「輪」

- ・デフリンピックに「触れた」ことで、少しずつお互いに交流やコミュニティが「輪」のように繋がっていくことを表現



③「花」

- ・輪が広がった先には、「新たな未来の花が咲いていく」という意味を込めた。
- ・桜の花弁をモチーフ

④「色」

- ・世界中から沢山の人が集まる大会なので、赤・黄・青・緑の色で多様性を表現

みんなで大会を
盛り上げる

大会の意義や魅力を伝える

・「デフリンピック」を伝える

デフスポーツやろう者の活躍などについて知るきっかけをつくり、デフリンピックへの興味・関心を高めてもらえるよう、訴求力のあるホームページやSNSなどを通じ、広く発信します。

デフスポーツや手話言語に理解のある人や発信力のある人を「東京2025デフリンピック応援アンバサダー」として起用し、大会の意義や魅力、スポーツの素晴らしさなどを積極的に伝えていきます。

大会エンブレムを用いた様々な広報PRツールを活用し、大会の意義や魅力を効果的に発信していきます。

・効果的な発信

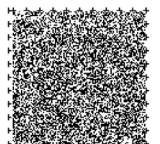
大会への注目度が高まる開催1年前の節目などの機会を捉えて、区市町村などとも連携しながら、様々な広報や気運醸成イベントなどを展開します。

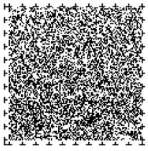
デフアスリートと子どもたちとの交流、デフリンピックの競技体験など、実際に大会の特徴や魅力を感じられる取り組みを実施します

共生社会について考える

・ろう者の文化を身近に

デフアスリートの活躍や、ろう者の社会活動の様子などをホームページで紹介することで、ろう者の文化を身近に感じ





てもらい、共生社会について考えを深めるきっかけとします。

子どもを含めた幅広い世代が手話言語に親しみを持てるよう、手話単語を簡単に学べる動画や、手話言語やデフリンピックをテーマとしたハンドブックを制作し、各種イベントなど、様々な機会に活用・発信していきます。

・芸術文化を通じた発信

大会を契機に日本を訪れるあらゆる人が楽しめる芸術文化の取組みを展開し、共生社会に向けたメッセージを発信していきます。

サポートの輪を広げる

・様々な連携

大会の準備運営にあたって

は、国内や都県の競技団体などとも連携していきます。

区市町村が主催するスポーツイベントにおける大会PRなど、自治体と連携した取組を展開していきます。

地域当事者団体とも協力・連携するなど、サポートの輪を広げていきます。

・多くの人々が参画する仕組みづくり

企業などのサポートを得て、デフリンピックの魅力を広めていきます。

寄附やクラウドファンディングなど、多くの方々が参画しやすい仕組みづくりを進めていきます。

東京2025デフリンピック 応援アンバサダーに就任

長濱 ねる さん

タレント、女優

初めての日本開催となる今大会に携わることができ、大変光栄です。

2年前に出演した手話を学ぶ番組で、高校生の皆さんから直接手話を教えていただく機会がありました。

その経験を生かし、デフリンピックならではの魅力を皆さんと共有し、日本で開催される貴重な大会を丸ごと応援していきたいけるようサポートさせていただきます。

川俣 郁美 さん

栃木県聴覚障害者協会理事

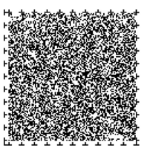
みなさんと一緒にデフリンピックを応援できること、わくわくが止まりません。デフリンピックの素晴らしさのみならず、手話やろう者の文化の魅力、多様な人がともに支えあい頼りあいがながら自分らしく生きるこ

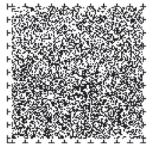
とができる共生社会の心地よさを、多くの人に届けるとともに、私自身も学びを深めていきたいです。「デフ」であることをより前向きに受け入れてくれる人が少しでも増えることを願い、全力で応援していきます。

KIKI さん

デジタルヒューマン

世界中のデファスリートが集結する大会を、みなさんと一緒に盛り上げていきたいことを楽しみにしています。わたしの夢は、世界の人々をつなぐ架け橋になること。日本で初めて開催されるデフリンピックをきっかけに、日本が世界に先立って「デフフレンドリーな社会を実現」できるような気がします。





お知らせ

4月2日は「世界自閉症啓発デー」
4月2日から8日は「発達障害啓発週間」です

4月2日は国連が定めた「世界自閉症啓発デー」です。日本では4月2日から8日を「発達障害啓発週間」としています。県民の皆さんに発達障がいについての理解を深めてもらうため、講演会を開催します。

- ・日時 4月6日(土) 13時から16時
- ・場所 クローバープラザ (春日市原町3丁目1-7)
- ・内容 「発達障がいかもしれない?共に働く人たちの職場での理解とサポート」
- ・講師 佐藤 恵美 氏
- ・定員 400人
- ・参加費 無料
- ・申込締切

3月18日(月) 17時 ※先着順
問い合わせ先
福岡県発達障がい者(児)支援センター(福岡地域) Life

TEL 092-558-1741
FAX 092-558-1742

障がいのある人に配慮した

県広報のご案内

本県では、県の施策やイベント情報などをお知らせする各戸配布広報紙「福岡県だより」の録音版・点字版や、県の魅力などを掲載したグラフィ誌「グラフィふくおか」の点字版「点字ふくおか」など、障がいのある人に配慮した情報発信を行っています。

これらの配布を希望する人は、次の申込先までご連絡ください。

「福岡県だより」録音版

(年6回発行)

〇形態

- ・音声CD版
- ・CDデジ版

(読取専用機が必要)

※令和6年3月号をもちまして、カセットテープ版の発行を終了します。令和6年5月号より、音声CD版を発行します。

〇申込先

福岡点字図書館

TEL 092-584-3590
FAX 092-584-1101

「福岡県だより」点字版

(年6回発行)

「点字ふくおか」

(年4回発行)

〇申込先

福岡県盲人協会

TEL 092-923-6336
FAX 092-923-6339

【問い合わせ先】

福岡県 県民情報広報課 広報係

TEL 092-643-3102
FAX 092-632-5331

電話リレーサービスを

「ご利用ですか」

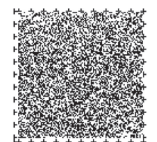
聴覚障がいや発話に困難のある人による手話や文字をオペレーターが通訳し、音声で伝える国のサービスです。「電話リレーサービス」を介した電話は、オペレーターが最初にその旨を説明した上で通話が始まります。事業所や窓口に予約や問い合わせなどオペレーターを介してお電話があった場合には、通話を拒否することなく、適切にご対応いただくようお願いいたします。

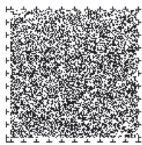
【問い合わせ先】

福岡県 障がい福祉課

TEL 092-643-3264
FAX 092-643-3304

(総務省ホームページ)





福祉情報センターでは、福祉に関する図書・ビデオの閲覧・貸出を行っています。

- 利用時間 9:00～17:00
- 休館日 月曜日(祝日の場合は翌日・第4月曜日は除く)
- 貸出 図書・ビデオ・DVD 合計10点まで
 ※貸出の際は、クローバープラザ利用者カードが必要です。
 ※遠方の方や外出が困難な方のために配送での貸出返却も行っています。(送料実費負担)
- 貸出期間 2週間以内
- 問い合わせ先 福祉情報センター 〒816-0804 春日市原町3丁目1番地7
 クローバープラザ東棟2階
 TEL 092-584-3330 FAX 092-584-3319

精神障害・発達障害のある方とともに働くためのQ&A50～採用から定着まで～
 眞保 智子 著 出版：日本加除出版



採用、実際に働いてから定着に至るまでなど、雇用の様々な場面における実践知を学べます。障がいのある方とともに働く職場づくりに精通している企業の経営者や人事担当者、地域の就労支援を担う専門職や医師、研究者など総勢24名による執筆です。

障害のある子が「親なき後」も幸せに暮らせる本

鹿内 幸四朗 著 出版：大和出版



30年後、私たちが死んだら“うちの子”どうなる？起こりうる困難を先読みしてつくった「親心後見」のしくみと、将来にわたって妻と子が安心して暮せるお金ののこし方。私がわが子の一生を守るために決めた“お金の原則”この原則にたどりついた“16年のプロセス”が本書にあります。

障害があるからおもろかった車いすに乗った谷口明広ものがたり

鈴木 隆子 著 出版：クリエイツかもがわ



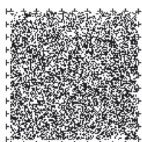
前向きに生きる姿勢とユーモアあふれる話で全国から講演依頼が殺到。目からウロコの話で人々に勇気を与え、障がいを味方につけて夢を実現した谷口さんのメッセージとおもしろいエピソードが満載です。

まんがと図解でわかる障害のある子の将来のお金と生活

渡部 伸 著 出版：自由国民社



障がい者が身内にいらっしゃる方は、自分がいなくなったあと、残された障がい者はどうなるのだろうと、将来についての悩みや不安をお持ちだと思います。それらの悩みや不安に対する解決方法を、著者が項目別に提案いたします。まんがと図解によって、具体的に説明しています。



福岡県障がい者福祉情報 ハンドブック2024

令和6年
4月発行

発行 福岡県社会福祉協議会（福岡県福祉情報センター）

価格 1部 1,600円（税込） A4版 395頁

★障がい者福祉制度・施策を満載

- | | |
|------------|--------------------|
| 1 手帳制度 | 8 就労 |
| 2 保健・医療・衛生 | 9 まちづくり・ボランティア |
| 3 日常生活援助 | 10 住宅 |
| 4 教育・育成 | 11 移動・交通 |
| 5 療育・訓練 | 12 教養・余暇・スポーツ |
| 6 年金・手当 | 13 情報・通信・コミュニケーション |
| 7 税金 | |

★県内における障がい福祉サービスの利用状況等を掲載

★県内全市町村の実施する地域生活支援事業・地域生活支援促進事業を網羅

- 相談支援事業
- 意思疎通支援事業
- 日常生活用具給付等事業
- 移動支援事業
- 地域活動支援センター機能強化事業
- その他の事業

★各種相談窓口、施設名簿、地域活動支援センター等を掲載

購入を希望の際は、下記窓口にお越しいただくか、申込書に必要事項を記入のうえ、FAX
または郵送でお申込みください。

送付をご希望の場合は、4月中旬からの発送となります。

障がい者福祉情報ハンドブック2024 申込書			
申込部数	部	×1,600円 + 送料 が 御請求額になります。	
氏名・団体名		担当者名	
送付先	〒		
TEL		FAX	
備考			

送 料：1部まで 370円、2部以上4部まで 748円

5部以上及び九州外、離島の送料は、下記へ問い合わせください。

【申し込み・問い合わせ先】

福岡県社会福祉協議会 福祉人材センター

〒816-0804 春日市原町3-1-7 クローバープラザ東棟2階

TEL 092-584-3330 FAX 092-584-3319

